科目名	聖和総合教育				担当者	専任教員（センニンキョウイン）						
区　分	必修	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。
専門的学習成果	①	学問を通じて幅広い知識や教養を身につけ、物事を主体的、総合的に判断できる思考力を培い、社会生活にいかすことができる。
	②	建学の精神に基づき日本人の心と文化を支えている「慈悲」「和」等の仏教の精神を学び、自他を慈しみ協働することができる。
	③	「社会に貢献していく生き方」について考え、自己啓発を続けることができる。
	④	コミュニケーション能力を高めると共に、社会人としてマナーや人間性豊かな保育者としての基礎を形成し、実践につなげることができる。
汎用的学習成果	(1)	建学の精神に基づき仏教精神に学びながら、社会に貢献していく生き方について探究することができる。(専門的学習成果②③に関連)
	(2)	学問を通じて幅広い知識や教養を身につけ、現代社会に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を身につけ、社会生活にいかすことができる。(専門的学習成果①④に関連)
授業概要		本学の理念である仏教精神に学びながら、自己と他者をともに慈しみ尊重する和の心を持って社会に貢献していく生き方について考える。また、本学での学びと社会人としての教養の基礎となる豊かなコミュニケーション能力を身につける。さらに保育に関する課題について研究討議し、保育者としての資質の向上を図る。

	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
評価方法 基準等	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	30	レポートを６回実施する。各５％で評価する。
		平常点	70	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果②③で評価する。 (2) は専門的学習成果①④で評価する。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年３月告示）	
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年３月告示）	
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年３月告示）	
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）	
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』（平成30年）	
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）	
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①保育者の基礎となり、社会人の基本となる新聞やニュース等を通じて様々な社会の出来事に関心を持つこと（予習：30分）。 ②単元ごとにレポートを課し、その内容を評価の対象として重視するため、自らの考察をしっかり記述する（復習：30分）。提出されたレポートは全体的な解説・講評を行う。	

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	聖和総合教育について	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。
	学習成果	聖和総合教育の具体的内容と到達目標を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	聖和総合教育のシラバスを読み、理解する。	
2回	授業内容	講演会（1）地域で生活する際のマナーと安全管理	レポート 当日中に提出
	学習成果	社会人として生活するうえで必要とされるマナーと安全管理について説明できる。	
	予習復習の内容	社会人マナー(公共交通機関の利用、SNS、防犯等）について説明できるようにしておく。	
3回	授業内容	降誕会	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。
	学習成果	降誕会を通して、仏教精神を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	降誕会について説明できるようにしておく。	
4回	授業内容	建学の精神を学ぶ	レポート 当日中に提出
	学習成果	学長講和「建学の精神」を通して建学の精神について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	建学の精神について説明できるようにしておく。	
5回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育：新聞を読む（1）	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。
	学習成果	新聞を読みメディアの特性を知り、社会生活で活用できる。	
	予習復習の内容	記事に対する感想・意見の記述・表明、読み比べなどを通して、新聞の特性を知り社会生活で活用できる。	
6回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育：新聞を読む（2）	
	学習成果	スクラップ、要約を通して、情報の的確な読み取りと活用する力を習得して社会生活で活用できる。	
	予習復習の内容	新聞のスクラップ、要約、疑問を調べる作業を通して、情報の的確な読み取りと活用する力を習得する。	
7回	授業内容	地域交流：特別支援学校との交流（1）	レポート 当日中に提出
	学習成果	光明支援学校高等部との交流を通して、コミュニケーション能力を高め、主体的な行動をとれるようになる。	
	予習復習の内容	交流を通して特別支援教育について理解を深め、コミュニケーション能力を高める。	
8回	授業内容	社会人マナー(1）挨拶の基本	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。
	学習成果	挨拶のマナーを基本から学び、日常で実践できる。	
	予習復習の内容	挨拶のマナーについて理解し、実践できるようにしておく。	
9回	授業内容	課題を取り上げ研究討議（ゼミ）	
	学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、自らの考えを適切に表現できる。	
	予習復習の内容	ゼミの課題内容について理解し、関係する文献を調べて自分の考えを説明できるようにしておく。	
10回	授業内容	課題を取り上げ研究討議（ゼミ）	
	学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、他者と協調、協働する力を養い実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	コミュニケーションに関する文献を調べて、自らのコミュニケーションについて振り返り課題を見出す。	
11回	授業内容	社会人マナー(2）敬語の使い方	
	学習成果	敬語の使い方を学び、社会人として適切なマナーを生活で活用できる。	
	予習復習の内容	敬語の使い方について理解し、日常でも実践する。	
12回	授業内容	精霊会	
	学習成果	精霊会を通して、仏教精神を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	精霊会について説明できるようにしておく。	
13回	授業内容	地域交流：特別支援学校との交流（2）	レポート 当日中に提出
	学習成果	光明支援学校高等部との交流を通して、他者理解を深め、他者と協調する力、協働する力を育み、地域社会で活用できる。	
	予習復習の内容	交流を通して障害について理解を深め、コミュニケーション能力を高める。	
14回	授業内容	地域交流：特別支援学校との交流（3）	レポート 当日中に提出
	学習成果	光明支援学校高等部との交流を通して、社会貢献活動について理解を深め、地域社会で活動できる。	
	予習復習の内容	社会貢献活動について理解を深め、多様なボランティア活動の実際を理解しておく。	
15回	授業内容	前期の学びを振り返る	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。
	学習成果	学習成果の自己評価を通して、前期の学びと課題を見出し、後期につなげることができる。	
	予習復習の内容	前期の学びと課題を整理して、説明できるようにしておく。	

授業計画			学習成果の評価
16回	授業内容	後期での課題解決に向けて：個別面接	
	学習成果	学習成果の自己評価をもとにした個別面接を通して、解決に向けた適切な取り組み課題を設定する能力を養い、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	取り組むべき課題を明確にし、課題解決に向けたプロセスについて理解しておく。	
17回	授業内容	実習を振り返り自らの態度やマナーを考える：ゼミ	
	学習成果	実習の振り返りを通して、そこで見えてきた自分の態度やマナーの課題を見出し、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	実習を振り返り、自らの態度やマナーの課題を整理し、表現できるようにしておく。	
18回	授業内容	課題を取り上げ研究討議（ゼミ）	
	学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、自らの考えを適切に表現できる。	
	予習復習の内容	ゼミの課題内容について理解し、関係する文献を調べて自分の考えを説明できるようにしておく。	
19回	授業内容	職業について考える：公務員という仕事	
	学習成果	公務員について理解する。社会に貢献できるようになるために今取り組むべきことを考え、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	公務員について内容や取り組むべきことを具体的に理解し、職業選択にいかすことができるようにしておく。	
20回	授業内容	課題を取り上げ研究討議（ゼミ）	
	学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、自らの考えを適切に表現できる。	
	予習復習の内容	ゼミの課題内容について理解し、関係する文献を調べて自分の考えを説明できるようにしておく。	
21回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育：新聞を読む（3）	
	学習成果	新聞が発信する情報を主体的に読み解き、評価し、自らの考えを表現することができる。	
	予習復習の内容	記事に対して他の資料等も加えてクリティカルに読み込み、自らの考えをまとめておく。	
22回	授業内容	社会人マナー(3）電話の応対	
	学習成果	電話の応対を学び、社会人として適切なマナーを生活で活用できる。	
	予習復習の内容	電話応対について理解し、日常でも実践する。	
23回	授業内容	講演会（2）「命の大切さ」	レポート 当日中に提出
	学習成果	講演会を通して「命の大切さ」について考え、自他を慈しむ態度を有する。	
	予習復習の内容	命に関する文献を読み、自己啓発に努める。	
24回	授業内容	課題を取り上げ研究討議（ゼミ）	授業への参加態度、関心、意欲を評価する。
	学習成果	ゼミで課題を取り上げ研究討議する中で、自らの考えを適切に表現できる。	
	予習復習の内容	ゼミの課題内容について理解し、関係する文献を調べて自分の考えを説明できるようにしておく。	
25回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育：新聞を読む（4）	
	学習成果	協力して作業を行う中で、他者の意見に耳を傾け、自らの考えをわかりやすく伝えることができる。	
	予習復習の内容	様々な考え方に視野を広げ、他者との協働を意識する。	
26回	授業内容	メディア・情報リテラシー教育：発信者としての自分を考える	
	学習成果	メディアにおける情報発信の影響やトラブルを理解し、予測・回避することができる。	
	予習復習の内容	個人がSNSやブログなどを利用する際の影響やトラブルについて理解しておく。	
27回	授業内容	職業について考える：先輩からの話	
	学習成果	先輩の話をもとに社会人の実際を理解する。社会に貢献できるようになるために今取り組むべきことを考え、実践につなげることができる。	
	予習復習の内容	働くことについてその実際や取り組むべきことを具体的に理解し、職業選択にいかすことができるようにしておく。	
28回	授業内容	涅槃会	
	学習成果	涅槃会を通して、仏教精神を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	涅槃会について説明できるようにしておく。	
29回	授業内容	保護者への手紙	
	学習成果	短大生活１年間を振り返り、周りの人たちに支えられていることを理解し、感謝を伝えることができる。	
	予習復習の内容	１年間を振り返り、支えてくれた人たちを思い、文章にすることができるようにしておく。	
30回	授業内容	学習到達度テスト	
	学習成果	１年間の学びを確認し、課題を見出す。	
	予習復習の内容	１年間の学習内容を理解しておく。課題を見出し解決向けて計画を立てる。	

科目名	人間と仏教				担当者	鎌田文恵（カマダ ブンケイ）・鎌田清寛（カマダ キヨヒロ）						
区　分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中または　hushiki@gmail.com　にて行う。											
専門的 学習成果	①	仏教を身近にあるものとして理解を深め、活用できる。										
	②	仏教における諸行事、特に降誕会・成道会・涅槃会について理解し概要を説明できる。										
	③	仏教の基本的な教えについて理解し概要を説明できる。										
	④	日本における仏教の代表的な十三宗派について全体的に理解し、概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	本学の建学の精神である仏教の精神を理解し、日々の生活に活かすことができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	坐禅などを通して自己を整えていくことができる。（専門的学習成果①に関連）										
授業概要	仏教の精神を基とする本学の建学の精神、即ち自他を大切にし慈しむ「慈悲」の心、支えあい協力し合う「和」の心、「智慧」を学ぶ人間教育という精神に基づいて、仏教を我々の身近なものとして学んでいく。勤行や坐禅といった体験を通し心身を整え自己を見つめると共に、仏教の基本的な教え、お釈迦様の生涯、日本に伝来して以後の仏教各宗派について学び、今後の学生生活や社会人生活、或いは人生において道標として活かせるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	40	講義９～15回目の内容について実施し、40% を配点する。								
		レポート										
		小テスト	40	講義１～７回目の内容について実施し、40% を配点する。								
		平常点	20	受講態度の他、坐禅、読経、仏教聖歌への取り組みにより評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
		『礼讃抄／修嵐林』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
		『仏教聖典』										
	大角修監修	『イラストでわかるやさしい仏教』		成美堂出版								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「般若心経」「延命十句観音経」の読経、及び仏教聖歌「三帰依文」「四弘誓願」の唱和を行うので、事前にテキスト「修嵐林」「礼讃抄」によく目を通し、最終的にテキストを見なくとも唱えられる・歌えるようになることが望ましい。（計60時間）　また、毎回坐禅を行うので坐を組みやすい服装で出席すること。厳粛な気持ちで臨み、私語は慎んで受講すること。 ②坐禅は適時指導し坐相や取り組みを評価対象とする。お経や小テスト及び定期試験については講義内容をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、降誕」	８回目の授業中に60分ほど時間を取り小テストを実施する。テスト範囲は第１～７回目の講義内容、並びに仏教聖歌とする。
	学習成果	坐禅や読経の仕方について理解する。降誕会について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「修嵐林」「礼讃抄」及び「仏教聖典」の２頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。	
2回	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、出家そして成道へ」	
	学習成果	成道会、初転法輪について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の２頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。	
3回	授業内容	勤行、坐禅、講義「釈尊の生涯、布教伝道の旅と涅槃」	
	学習成果	涅槃会について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の２頁目～第一章「史上の仏」をよく読んでおく。	
4回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、三法印、四法印」	
	学習成果	三法印、四法印について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の51頁目～第二章「人と心のありのままの姿」をよく読んでおく。	
5回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、縁起」	
	学習成果	因縁生起や十二因縁について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の42頁目～第一章「因縁」をよく読んでおく。	
6回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、四諦八正道、中道」	
	学習成果	四諦八正道、中道について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の42頁目～第一章「因縁」をよく読んでおく。	
7回	授業内容	勤行、坐禅、講義「仏教の基本的な教え、三学、六波羅蜜」	
	学習成果	六波羅蜜について理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の163頁目～第二章「実践の道」をよく読んでおく。	
8回	授業内容	勤行、坐禅、小テスト	
	学習成果	釈尊の生涯並びに仏教の基本的な教えについて理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」や１～７回目の講義で配布したプリントなどを整理し復習しておく。	
9回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、仏教の伝来と広がり」	定期試験時に筆記試験を実施する。試験範囲は第９回目～15回目の講義内容、並びに仏教聖歌、お経などとする。
	学習成果	日本への仏教伝来と広がりの概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	自分の家のお墓があるお寺や身近にあるお寺の宗派などを調べておく。	
10回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、奈良時代の仏教、南都六宗」	
	学習成果	奈良時代から現代へ至る法相宗、華厳宗、律宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
11回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、天台宗・真言宗」	
	学習成果	天台宗、真言宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
12回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、融通念仏宗・浄土宗」	
	学習成果	浄土信仰、そこから生まれた融通念仏宗・浄土宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
13回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、浄土真宗・時宗」	
	学習成果	浄土真宗・時宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
14回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、臨済宗・曹洞宗・黄檗宗」	
	学習成果	禅宗と呼ばれる臨済宗・曹洞宗・黄檗宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	「仏教聖典」の286頁目～「仏教通史」をよく読んでおく。	
15回	授業内容	勤行、坐禅、講義「日本における仏教、日蓮宗」	
	学習成果	日蓮宗について概要を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	授業全体の内容全体を改めて整理し復習しておく。	

科目名	文学入門				担当者	関根 俊二（セキネ シュンジ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業後あるいはオフィスアワー（初回授業で説明）											
専門的 学習成果	①	多様な文学作品について知識をもち、説明することができる。										
	②	深く自由に作品を読み込む方法を把握し、説明することができる。										
	③	文学作品を通して自身の考察力をとらえなおし、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	文学についての教養を身につけ、社会生活をとらえなおすことができる。（専門的学習習成①②③に関連）										
	(2)	言語表現について理解が深まり、言語を自覚的・選択的に用いることができる。（専門的学習習成①③に関連）										
授業概要	社会や人生について主体的にとらえなおすために、文学は格好のツールだと考える。知らなかった世界を疑似体験し、新しい視点の有効なことを教えてくれ、多様な価値観と向き合うことができる。しかし、忙しく生きる私たちは、本来の読書の楽しさや作品をじっくりと読み解く方法を忘れがちである。この授業では、さまざまなジャンルの作品を扱い、文学の知的探求について理解を深めてもらう。また、そのためにも、文学作品を的確に読み取る技術を確認していく。											

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート	100	計10回実施し（授業内での執筆を含む）、独創性と論理的説明の観点で各回10点を配点する。
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①③で評価を行う。		

テキスト 等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	U・エーコ	『ウンベルト・エーコ　諸説の森散策』	岩波書店
	E・ブロンテ	『嵐が丘』	各社の文庫
	森絵都	『カラフル』	文藝春秋
	萩尾望都	『萩尾望都作品集９　半神』	小学館

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業で扱う作品を、授業の前後に読んでおくこと（各回あたり２時間程度）。また、関連する作品も紹介するので、積極的に読み進めてほしい（計15時間程度）。これらの活動は、＜発見＞を求め、＜全体＞と向き合うような読書であること。授業外での執筆を課すレポート作成に計15時間程度。 ②提出されるレポートは講評を添え毎回、速やかに返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション　『嵐が丘』を通し読むことを意識化	レポート①課題 - グリム童話の再読に立ち会って（第３回に実施）
	学習成果	読書行為を意識化でき、それについて説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料（グリム童話）を読み、諸読後の感想をまとめる。	
2回	授業内容	グリム童話再読①　「ヘンゼルとグレーテル」による主人公の探求	
	学習成果	柔軟な解釈の方法について手ごたえをもち、その意義の一端を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を再読する。	
3回	授業内容	グリム童話再読②　新たなテーマの追究	
	学習成果	さまざな角度からグリム童話作品について説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を再読する。グリム童話の関連作品を読みこむ。	
4回	授業内容	宮崎駿アニメを読む①　再考「となりのトトロ」	レポート②課題 - 授業を通し考えたこと
	学習成果	生産的解釈に立ち会い作品の新しい一面を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	宮崎駿アニメを視聴する。	
5回	授業内容	宮崎駿アニメを読む①　再考「千と千尋の神隠し」	レポート③課題 - 授業を通し考えたこと
	学習成果	生産的解釈に立ち会い作品の新しい一面を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	江国香織作品を読んでおく。	
6回	授業内容	江国香織「すいかの匂い」を読む	レポート④課題 - 授業を通し考えたこと
	学習成果	生産的解釈に自ら取り組み作品の新しい一面を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	同名短編集収録の他の作品を読む。	
7回	授業内容	映画「阪急電車」についての考察①	レポート⑤課題 - 映画「阪急電車」を視聴して（第８回に実施）
	学習成果	作品が日常をどのように描いているか自身の見解をもち説明できる。	
	予習復習の内容	有川浩の原作『阪急電車』を読む。	
8回	授業内容	映画「阪急電車」についての考察②	
	学習成果	作品に対する見解を深め説明できる。	
	予習復習の内容	『植物図鑑』など作者の別の作品を読む。	
9回	授業内容	芥川龍之介「羅生門」を読む	レポート⑥課題 -「羅生門」が生み出したもの
	学習成果	原典と比較し何が加えられたのか理解し説明できる。	
	予習復習の内容	芥川龍之介「雛」を読んでおく。	
10回	授業内容	芥川龍之介「雛」を読む	レポート⑦課題 -「雛」の人々について
	学習成果	視点の違いに注目し作品を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	太宰治「富嶽百景」を読んでおく。	
11回	授業内容	太宰治「富嶽百景」を読む	レポート⑧課題 -「富嶽百景」の美について
	学習成果	美の創出の観点で作品を理解し説明できる。	
	予習復習の内容	美の創出に関わる代表的な作品を紹介するので、読んでおく。村上春樹『蛍』を読む	
12回	授業内容	村上春樹『蛍』を読む	レポート⑨課題 - 村上春樹『蛍』の中の日常について
	学習成果	作品が日常をどのように描いているか自身の見解をもち説明できる。	
	予習復習の内容	同名短編集収録作品を読む。	
13回	授業内容	キャラメル・ボックスの演劇作品の鑑賞①	レポート⑩課題 - 演劇「彗星はいつも一人」を視聴して（第13回に実施）
	学習成果	ジャンルによる表現の違いについて理解し説明できる。	
	予習復習の内容	該当作品を視聴する。	
14回	授業内容	キャラメル・ボックスの演劇作品の鑑賞②	
	学習成果	全体を意識しながら作品の特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	同劇団の他の演劇作品を視聴する。	
15回	授業内容	まとめ　読書の方法と可能性についての整理	
	学習成果	講義内容全般について理解し説明できる。	
	予習復習の内容	講義内容全般を整理する。	

科目名	心理学入門				担当者	齊藤樹里（サイトウ ジュリ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業終了後に受け付ける。

専門的学習成果	①	心理学が扱うテーマについて説明できる。
	②	人の知覚や認知における環境の影響について説明できる。
	③	発達課題と心の問題について説明できる。
	④	心理的問題への対処法について説明できる。
	⑤	心理社会的課題について考察できる。
	⑥	心理学的知識を日常生活に応用し生活をよりよくする態度を身につける。
汎用的学習成果	(1)	自己についての理解を深める。（専門的学習成果①②③④に関連）
	(2)	現代社会の問題を解決するための知識と技能を獲得する。（専門的学習成果①②③④に関連）
	(3)	より良い社会を構築しようとする態度を身につける。（専門的学習成果⑤⑥に関連）

授業概要	本科目では、心理学をはじめて学ぶ学生のために心理学の基本的な理論や概念について網羅的に解説する。心理学とは心と行動に関する科学的学問であり、その背景には生理学的基盤がある。パーソナリティ心理学・発達心理学の領域を中心に人の考え方や行動のメカニズムを生活と関連付けて解説する。 基本的には講義形式で進めるが、必要に応じてグループワークも行う。これらを通じて、受講者が自己および他者、社会について洞察できるようになることを目的としている。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	55	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		課題への取り組み	45	授業の態度・関心・意欲を、毎回課す振り返りで評価を行う。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 （2）は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 （3）は専門的学習成果⑤⑥により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
		授業の中で紹介する。	

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①適宜資料を配布するので、授業中に出てきた用語や関心のあるテーマについて各自で調べ知識を深めるようにすること。自ら理解を深めるために調べていると想定されることも試験範囲とする。 ②授業内でフィードバックする。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション	各授業内容に関する振り返りを、授業終了後に提出。
	学習成果	本講義での学習計画を把握し、心理学が扱うテーマを理解する。	
	予習復習の内容	シラバスを読み、学習内容を確認する。 心理学についての自分なりのイメージをもつ。	
2回	授業内容	知覚と認知	
	学習成果	外界からの刺激をどう知覚、解釈するのかを体験し、説明できる。	
	予習復習の内容	自分自身の生活の中の事象と結びつけて考え、説明できる。	
3回	授業内容	行動と学習	
	学習成果	行動が生じるメカニズムについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	自分の行動パターンを振り返り、心理学的に整理、今後の行動に生かせる。	
4回	授業内容	コミュニケーションと他者理解	
	学習成果	グループワークを通して、体験しながら他者理解を行う。	
	予習復習の内容	グループワークのための事前準備をする。 その後の日常生活に学習内容を生かす。	
5回	授業内容	発達心理学①　乳児期～青年期	
	学習成果	ライフサイクルから見た適応の問題について説明できる。	
	予習復習の内容	自分自身の発達を振り返りながら、その重要性と現代社会について考える。	
6回	授業内容	発達心理学②　成人期～老年期・脳と心の関係	
	学習成果	ライフサイクルから見た適応の問題について説明できる。	
	予習復習の内容	自分自身の周りの大人をイメージしながら、今後の自分自身の発達についてイメージをもつ。	
7回	授業内容	パーソナリティの理論	
	学習成果	代表的なパーソナリティ理論を説明できる。	
	予習復習の内容	生活特性の形成に影響を及ぼすものについて考える。	
8回	授業内容	自己理解（エゴグラム）	
	学習成果	エゴグラムから見たパーソナリティについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	実際にエゴグラムを体験し、エゴグラムから見た自分自身のパーソナリティを把握、今後の生活に生かせる。	
9回	授業内容	社会的認知バイアス①　対個人	
	学習成果	多様な非合理的な心理現象について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	自分自身の経験などを振り返り、今後の行動にどう生かせるかを考える。	
10回	授業内容	社会的認知バイアス②　対集団	
	学習成果	多様な非合理的な心理現象について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	自分自身の経験などを振り返り、今後の行動にどう生かせるかを考える。	
11回	授業内容	社会情動学習（アサーティブな人間関係）	
	学習成果	アサーションについて理解し、体験する。	
	予習復習の内容	ワークを通して自分のコミュニケーションのタイプを知る。 グループワークを通して、アサーティブな人間関係について考える。	
12回	授業内容	アドラー心理学	
	学習成果	アドラー心理学に触れ、自分自身の考え方を整理する。	
	予習復習の内容	アドラー心理学の代表的な考え方を理解し、自分自身の考え方と照らし合わせながら、整理する。	
13回	授業内容	メンタルヘルス①	
	学習成果	ワークや理論を通して、精神面について考える。	
	予習復習の内容	自分自身の刺激の受け取り方、考え方や感じ方、行動の仕方を振り返り、新たな考え方や行動を身に付ける練習をする。	
14回	授業内容	メンタルヘルス②	
	学習成果	ワークや理論を通して、精神面について考える。	
	予習復習の内容	ストレスなどから生じやすい精神疾患について理解し、自分自身の対処法をそれぞれで考え、シェアする。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの講義内容を説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの講義内容を整理する。	

科目名	ボランティア論				担当者	緑川浩子（ミドリカワヒロコ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。
専門的学習成果 ①	ボランティアの意義を理解し、必要性を説明できる。
専門的学習成果 ②	ボランティア活動が担う社会的役割を理解し、重要性を説明できる。
専門的学習成果 ③	分野別ボランティア活動の基礎知識を理解し、実際の現場で活用できる。
汎用的学習成果 (1)	ボランティア活動の歴史や原則を学ぶことを通して、社会生活に活かすことができる。（専門的学習成果①②③に関連）
汎用的学習成果 (2)	ボランティア活動に期待される社会的役割を学ぶことを通して、社会貢献をすることができる。（専門的学習成果②③に関連）
汎用的学習成果 (3)	幅広い分野（災害、児童、高齢者、障害児・者等）のボランティアスキルを身に付け、地域社会で支援活動ができる。（専門的学習成果③に関連）
授業概要	現在、我が国は度重なる自然災害、児童や障害者に対する「いじめ」や「虐待」問題、さらには超高齢社会と言った、これまでにない過酷な状況に置かれている。このように生きづらい現代社会においてはボランティア活動の重要性と必要性は、益々高まっている。そのような背景を踏まえ、この講義では、日常の社会生活や実際のボランティア現場で役立つ基礎的知識と技術を実践事例などを活用しながら学習する。また児童の分野のボランティア活動として、毎年、児童養護施設で生活している児童へ手作りクリスマスカードを作成し、送付している。

評価方法基準等 学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
専門的学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
専門的学習成果	レポート	10	理解度、関心の高さで評価を行う。
専門的学習成果	提出物	20	丁寧さ、独創性で評価を行う。
専門的学習成果	平常点	10	授業態度・意欲で評価を行う。
汎用的学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③により評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
	岡本　栄一	『ボランティアのすすめ』	ミネルヴァ書房
	原田　正樹	『ボランティアを楽しむ～奉仕体験活動のアイディア＆指導案』	学事出版

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①報道や新聞、身の回りの出来事などを常にチェックし、自分に何ができるかを考え、ボランティア活動の必要性を認識するよう心がける（予習：週２時間程度）。 授業のなかで得た知識や感じたこと等についてレポートを課すので、授業内容を毎回振り返り自分なりに考察すること（復習：週２時間程度）。 ②提出されたレポートについては、適正な評価を行い返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（かかわる～「出会い」と「つながり」の意味	小レポート 授業内で第１～８回までの特に重要な事項に関してのレポート（約20分程度）
	学習成果	人との出会いの大切さを知り社会生活に活かすことができる	
	予習復習の内容	講義の中の「キーワード」をまとめる	
2回	授業内容	なぜボランティアが必要とされるのか（歴史的流れから考察する）	
	学習成果	我が国のボランティアの発生とこれまでの主な活動が説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
3回	授業内容	ボランティア活動の基礎的性格と定義・原則	
	学習成果	ボランティア活動の意義とルールが説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
4回	授業内容	ボランティアを支える専門職とその役割（NPO 法人、社会福祉協議会など）	
	学習成果	NPO，NGO，社会福祉協議会の活動を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
5回	授業内容	ボランティアコーディネーターと現場の実際	
	学習成果	ボランティアコーディネーターの業務内容を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
6回	授業内容	ボランティア活動の基礎的マナー	
	学習成果	現場での活動の際の考慮事項を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
7回	授業内容	傾聴ボランティア	
	学習成果	コミュニケーションの技術を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
8回	授業内容	災害ボランティア	
	学習成果	災害が起きたときの援助方法を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
9回	授業内容	児童の分野のボランティア（児童問題の理解、X'mas カード作成）	X'mas カードを手作りする。現場に行かなくてもボランティア活動はできるということを実感する。
	学習成果	社会的養護を必要とする児童の実態を説明できる	
	予習復習の内容	児童養護施設に贈る X'mas カードを作成する	
10回	授業内容	障害児・者の分野のボランティア	
	学習成果	障害児・者への支援ができる	
	予習復習の内容	配布資料のポイントをチェックする	
11回	授業内容	高齢者の分野のボランティア	疑似体験を通して高齢者の身体的特徴と心理を学ぶ。
	学習成果	疑似体験を通して高齢者の理解と支援ができる	
	予習復習の内容	疑似体験で得たことをまとめる	
12回	授業内容	ボランティア活動の実際	
	学習成果	事例を通して、実際の現場を理解し、社会で活かすことができる	
	予習復習の内容	配布資料のポイントを整理する	
13回	授業内容	ボランティア活動における記録と評価	
	学習成果	活動の記録の仕方と使い方を説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
14回	授業内容	スーパービジョン	
	学習成果	ボランティアの教育方法なとを説明できる	
	予習復習の内容	配布するワークシートをまとめる	
15回	授業内容	まとめと振り返り	
	学習成果	これまでの学習で身に付いたことを説明できる	
	予習復習の内容	ノートや配布資料を整理する	

科目名	社会福祉概論				担当者	高橋達男（タカハシ タツオ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中及び授業前後の時間以外はオフィスアワー（初回授業で説明）
専門的学習成果	①	社会福祉の基本的な仕組みを説明することができ、社会保障などのあり方を論ずることができる
	②	社会福祉専門職者としての専門性と資質を述べることができ、自らの社会福祉援助観を講ずることができる
	③	人権擁護の視点や職業倫理を獲得し、社会福祉を実践することができる
汎用的学習成果	(1)	国や自治体の行政に対して社会福祉や社会保障のあり方について提言することができる（専門的学習成果①に関連）
	(2)	社会福祉の利用者に対して、その課題に誠実に対応することができる（専門的学習成果②に関連）
	(3)	利用者の課題解決に向けて、関係者や関係機関と十分に連携・協働することができる（専門的学習成果③に関連）
授業概要	社会保障を含めた社会福祉の全容について学ぶ。社会福祉の歴史すなわち、その時代の福祉的課題を反映させるべく展開してきた施策の経過を学ぶことにより、超高齢化や少子化そして総人口減少という今日的課題への対処について考察を深める。現状希求されている地域福祉の実践の仔細を学び、住民に対する公助・共助のあり方を探求することに努める。また、社会福祉の価値や倫理、アイデンティティーを学ぶことにより、社会福祉援助者、社会福祉専門職としての従事へのモチベーションを高めていく。		

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	80	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート	20	社会福祉の価値や倫理を問い、文脈や内容で評価を行う。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等	石田慎二・山縣文治	『新・プリマーズ社会福祉　最新版』	ミネルヴァ書房
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名
		『国民の福祉と介護の動向　2022/2023』	厚生労働統計協会

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、レジュメ、配布資料を活用し授業を進める。事前学習として、テキストを読み予習してくること。関連部分について新聞やテレビ、文献などから情報収集しておくこと。（予習：週２時間程度）事後学習としては、テキスト、配布物、記録ノートを読み返して復習すること。（復習：週２時間程度） ②テキストの「章のまとめ」に沿ったディスカッションを行い、その内容についてコメント的に解説する。レポートについては、評価終了後に授業内で総括的に解説する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	社会福祉の考え方（構造、価値と倫理）	定期試験で評価
	学習成果	社会福祉の構造や援助理念を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
2回	授業内容	社会福祉を取り巻く環境（少子高齢化、現代の貧困）	
	学習成果	社会福祉の現代的環境を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
3回	授業内容	社会福祉の歴史（戦前と戦後、社会福祉基礎構造改革）	
	学習成果	社会福祉の歴史と改革を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
4回	授業内容	社会福祉の仕組み（法律、行政、財政、費用負担）	
	学習成果	社会福祉の仕組みの全体を理解し、筋立てて説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
5回	授業内容	社会福祉のサービス利用の仕組み	
	学習成果	社会福祉のサービス利用の仕組みの全体を理解し、体系的に説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
6回	授業内容	社会福祉の機関と施設	
	学習成果	社会福祉の機関と施設の種類や機能を理解し、分別して説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
7回	授業内容	社会保障（年金制度、医療保険）	
	学習成果	公的社会保険の全容を理解し、効果を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
8回	授業内容	低所得者福祉（生活保護）	
	学習成果	生活保護制度の詳細を理解し、原理・原則を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
9回	授業内容	児童家庭福祉（条約法律、施設、虐待対応）	レポート（社会福祉の価値と倫理を問う）
	学習成果	社会的養護のあり方を理解し、児童保護の理念を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
10回	授業内容	高齢者福祉（介護保険制度）	
	学習成果	介護保険制度の詳細を理解し、主旨を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
11回	授業内容	障害者福祉（法体系、理念）	
	学習成果	障害者福祉の理念を理解し、主旨を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
12回	授業内容	地域福祉（機関団体、活動）	
	学習成果	地域福祉支援事業の進め方を理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
13回	授業内容	利用者保護制度（成年後見制度等）	
	学習成果	利用者保護制度の仕組みを理解し、概要を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
14回	授業内容	社会福祉援助技術（ソーシャルワークの種類）	
	学習成果	社会福祉援助技術の種類を理解し、体系と過程を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	
15回	授業内容	社会福祉援助の担い手（職場職種、資格）	
	学習成果	社会福祉援助者の実践理念を理解し、主旨を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト、文献を読み、関連情報を収集して予習する。授業内容を振り返って復習する	

科目名	ライフデザイン総合				担当者	堀（ホリ） 良平（リョウヘイ） ・ 君島（キミジマ） 智子（トモコ） ・ 東海林（トウカイリン） 初枝（ハツエ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。
専門的学習成果 ①	ライフデザインがなぜ重要なのかを理解し、その必要性を説明することができる。
専門的学習成果 ②	ライフデザインを通して自身の人生を振り返るとともに、今後についても主体的に考えることができる。
専門的学習成果 ③	人生における様々な時期を理解し、自分だけではなく他者への理解を示すことができる。
汎用的学習成果 (1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、一人の大人として社会に貢献することができる。 （専門的学習成果①②③）
汎用的学習成果 (2)	ライフデザインを通して得た人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、他者と協働することができる。（専門的学習成果①②③）
汎用的学習成果 (3)	ライフデザインを通して得た専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展へ積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③）
授業概要	ヒトの誕生から老後の暮らしまでそれぞれの段階について学ぶことで、今後予想されるライフイベントを具体的に検討し、より豊かなライフデザインが行えるようにしていく。誕生から現在までは過去の自分を振り返るとともに将来の子育てについて考えるものとし、就職、結婚、老後の生活などを学ぶ中では、将来の自分や、自分自身の家族について考えていくものとする。授業の進め方としては講義形式となるが、事前のワークシートの記入や授業中のグループワーク、事後のレポート提出など積極的に参加することを求める。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験		
		レポート	80	毎回の講義で授業の感想を期日までに振り返りシートで提出するとともに、定期的に記述式のレポートを提出し、その内容を評価する。
		グループワーク	20	講義内で行う、討議・グループワークにおける発表・参加態度を評価する。
	汎用的学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③により行う。 （2）は専門的学習成果①②③により行う。 （3）は専門的学習成果①②③により行う。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等		テキストとなる講義資料、レジュメを配布する	
参考書参考文献			

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①準備学習等履修上の留意点 授業で配布する参考資料を活用し授業を進める。 ＜事前学習＞テーマに沿った内容についてインターネット等を通して研究するとともに、事前に配布するシードがある場合はそれを記述する。（予習：週１時間程度） ＜事後学習＞講義内で学習したことについて各自のライフデザインに合わせて振り返る。（復習：週１時間程度） ②フィードバックの方法等 提出した各種レポートについては講義時にフィードバックを行う。内容によってはグループワークを通してクラス内での共有を図っていく。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	講義から得たことや今後に生かしていくべきこと、疑問点について振り返りシートを通して提出する。 授業内では適宜グループワークを通して、理解の共有を図り、そこでも発言や参加態度なども評価の対象としていく。 さらに講義内容によって出される事前・事後課題を提出する。
	学習成果	本講座での学習計画について把握する。	
	予習復習の内容	シラバスを読み、学習内容を確認する。	
2回	授業内容	ヒトの命の始まりから誕生に至る段階（胎生期）の理解	
	学習成果	受精から出生までの巧みさや神秘に触れ、生命の尊重、生命の連続性について感じ取ることができる。	
	予習復習の内容	配布する資料又は視聴する資料に対し、感想をまとめる。	
3回	授業内容	乳児期の理解：人間の育ちと愛着	
	学習成果	生涯発達の視点から、乳児期の重要性を理解する。基本的信頼感の獲得や愛着の形成について理解する。	
	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、授業内容を確認、整理する。	
4回	授業内容	幼児期の理解：非認知能力と幼児期の育ち	
	学習成果	生涯発達の視点から、幼児期の重要性を理解する。非認知能力について理解し、幼児期の発達と遊びの意味を理解する。	
	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、ワークシートに記載する。	
5回	授業内容	学童期の理解：自己効力感と学習のつながり	
	学習成果	生涯発達の視点から、学童期の重要性を理解する。小１プロブレム、９歳の壁等について理解し、自己効力感と学習のつながりを理解する。	
	予習復習の内容	事前に配布する資料を読み、関連するニュース等に目を通す。事後学習として、ワークシートに記載する。	
6回	授業内容	青年期～中年期の理解①：アイデンティティの確立	
	学習成果	自分自身の中学・高校時代を振り返りながら、現在の自分について考えることができる。	
	予習復習の内容	ワークシート（中学・高校時代の振り返り）をまとめる。	
7回	授業内容	青年期～中年期の理解②：現在の自分に対する理解	
	学習成果	短大での生活を振り返り、卒業までの目標を掲げることができる。	
	予習復習の内容	自分自身の卒業までの目標や考えをまとめておく。	
8回	授業内容	青年期～中年期の理解③：社会へ出ること（就職、自立）	
	学習成果	卒業後社会に出るにあたり、自立する上でのプランを主体的に考えることができる。	
	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	
9回	授業内容	青年期～中年期の理解④：人生における選択（結婚、出産、転職）	
	学習成果	人生における様々なライフイベントを理解し、自身のキャリアをより豊かにできる方法を検討できる。	
	予習復習の内容	卒業後の進路について自分なりに考えるとともに、家族などの意見も聞いておく。	
10回	授業内容	青年期～中年期の理解⑤：ライフプランを立ててみる	
	学習成果	青年期～中年期の学習内容を理解し、自身のライフプランを立てることができる。	
	予習復習の内容	ここまでの講義内容を振り返り、自分の今後の人生について考えをまとめておく。	
11回	授業内容	青年期～中年期の理解⑥：現在の社会情勢（政治）	
	学習成果	社会に出る上での現在の政治情勢を理解し、そこに自分のライフデザインを重ね合わせて考えることができる。	
	予習復習の内容	最新の時事を含めた政治問題をインターネットなどを通して把握しておく。	
12回	授業内容	青年期～中年期の理解⑦：現在の社会情勢（経済）	
	学習成果	社会に出る上での現在の経済情勢を理解し、そこに自分のライフデザインを重ね合わせて考えることができる。	
	予習復習の内容	最新の時事を含めた経済問題をインターネットなどを通して把握しておく。	
13回	授業内容	老年期の理解①：老年期の身体面、心理面、社会面の特徴	
	学習成果	加齢、老化による心身や社会的側面の変化の特徴を列挙できる。	
	予習復習の内容	ワークシート（老年期の特徴）をまとめる。	
14回	授業内容	老年期の理解②：高齢者の健康の捉え方	
	学習成果	高齢者の健康が注目されるようになった背景を理解し、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング等の考え方をを説明できる。	
	予習復習の内容	ワークシート（健康長寿に向けての健康）をまとめる。	
15回	授業内容	まとめ、最終レポート作成	学習内容を整理し、レポートとして提出する。
	学習成果	本講座を通して学習したことを整理し、その内容を説明できる。	
	予習復習の内容	ここまでの授業内容を復習する。	

科目名	英語コミュニケーション				担当者	川辺　博（カワベ ヒロシ）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。
専門的学習成果 ①	保育に関する英会話の基本表現を理解し、使うことができる。
専門的学習成果 ②	「幼児教育・保育英語検定」受検のための対策ができる。
専門的学習成果 ③	英語学習をとおして異文化接触や外国語全般への関心を深める。
汎用的学習成果 (1)	英語の運用能力を高め、社会（特に保育の現場）で主体的に活用できる。（専門的学習成果の①②に関連）
汎用的学習成果 (2)	外国語や異文化への理解と関心を深め、自分とは異なる文化的背景をもつ人とも協働できる。（専門的学習成果の③に関連）
授業概要	保育に関する英語表現を中心に扱う教材を使用して、保育所や幼稚園で役に立つ英会話を練習する。日本人学生にとって習得が困難な発音については、調音音声学的な観点から特に丁寧に指導する。並行して、基本的な文法事項や、保育や幼児教育に必要な語彙（身体部位、病気・けが、行事など）を確認する。教科書に示された例文から発展して「同じ場面で自分ならこう言う」という応用力・想像力を向上させる。「幼児教育・保育英語検定３級」レベルの内容であり、受検・合格を目指す。

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	筆記試験により、内容の理解の程度と運用技能の水準を把握する。
		レポート		
		小テスト	40	授業時間中に、復習のための小テストを毎回実施する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果の③によって評価をおこなう。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	宮田学編、高橋妙子著	『保育英語の練習帳』	萌文書林

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①教科書で使われている単語や文法事項は、前もって調べておくこと。音声ファイルをスマートフォンにダウンロードし、あらかじめ聞いて耳を慣らしておくこと（予習：週２時間程度）。授業後は各自または友人と組んで練習すること（復習：週２時間程度）。 ②小テストおよび期末試験は返却し、その際に解説をおこなう。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、「保育所で働く人たち」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	この授業の内容を理解する。保育所で働く人たちの職名を身につける。	
	予習復習の内容	前もってシラバスを読み理解する。ガイダンスにもとづき学習計画を立てる。	
2回	授業内容	「保育所の園舎」「あいさつと基本調査」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	園舎に関する単語、あいさつ表現、家族に関わる単語を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
3回	授業内容	「保育室の中」「時間と数字」「園児の持ち物」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	保育室にある物の名前、時間と数字の表現、園児の持ち物の名前を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
4回	授業内容	「保育所の周辺」「道順」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	保育所の周辺にある場所の名前、道案内の表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
5回	授業内容	「園児の遊び」「園庭の遊具」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	子どもの遊びの表現、園庭にある遊具の名前を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
6回	授業内容	「天気」「感情と体調」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	天気に関する表現、子どもの気持ちや状態を表す表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
7回	授業内容	「日課：５歳児クラス」「日課：乳幼児クラス」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	保育者の日常業務に関する表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
8回	授業内容	「ランチタイム」「ランチの献立」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	食事に関する表現（食材や献立を含む）を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
9回	授業内容	「トイレット・トレーニング」「連絡帳」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	トイレに関する表現、連絡事項を表す表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
10回	授業内容	「けんか」「身体の部位」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	けんかやトラブルに関する表現、身体部位の名前を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
11回	授業内容	「けがと病気」「救急処置」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	けがや病気に関する表現、応急処置に関する表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
12回	授業内容	「電話の応対」「留守番電話」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	電話の応対などに用いる表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
13回	授業内容	「遠足」「年間行事予定」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	遠足に関する表現、年間行事に関する表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
14回	授業内容	「育児用品」「赤ちゃんの成長」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	赤ちゃんへの言葉かけや育児用品に関する表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。	
15回	授業内容	「卒園」「祝日と記念日」	確認・応用テストを毎回実施する。
	学習成果	卒園に関する表現や祝福・感謝の表現、記念日に関する表現を身につける。	
	予習復習の内容	単語や文法項目を前もって調べておく。全体の内容を復習する。	

科目名	フランス語入門				担当者	ノエミ・レキ						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	各授業の前後に対応

専門的学習成果	①	フランス語で初歩的な日常会話ができる。
	②	フランスおよびフランス語圏文化について説明できる。
	③	フランス語での自己表現や対話を通じ、フランス語でコミュニケーションが取れる。
汎用的学習成果	(1)	フランス語の基礎的な知識と表現方法を学び、社会や職業上で必要とされる場面での実践につなげることが出来る。（専門的学習成果①及び③に関連）
	(2)	日本語以外の言語の学習を通じて、自己表現方法や論理的思考法を鍛錬しつつ、他者や他言語話者理解の観点から主体的に行動できる。（専門的学習成果①及び③に関連）
	(3)	異文化に触れることでグローバルな視点を獲得し、時刻や地域社会を客観視しながら、その発展や問題解決に貢献することが出来る。（専門的学習成果②に関連）
授業概要	世界中の多くの国々で使用され、国連や欧州連合などでも公用語の一つに選ばれているフランス語は、実用性と論理性を高いレベルで兼ね備えた言語である。当授業では初歩の日常的な会話表現を中心に、フランス語での簡単なコミュニケーションができることを目指す。発音・聴解・読解・文法・語彙、使用頻度の高い提携表現などあらゆる角度からアプローチし、総合的にフランス語の基礎を習得する。また、CD、DVD、映画等の視聴覚資料を適宜使用しながらフランスおよび、フランス語圏の日常生活や文化を紹介し、異文化への関心・理解を深めることを目的とする。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	60	第14回目の授業内で実施。選択式・記述式の問題を課し、評価を行う。
		レポート		
		平常点	40	授業の態度・関心・意欲を評価する。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①及び③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②で評価を行う。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等		『仏和辞典（任意）』	
参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容をよく復習し、声に出しながら反復練習する事（予習・復習週４時間程度）。講義に集中して積極的に参加する事。 ②第15回授業内の期末試験後に開設を行う。（試験：１時間、解説：30分）

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	初めてのフランス語とフランス	
	学習成果	フランスの発見、そして最初のフランス語の言葉を覚える。	
	予習復習の内容		
2回	授業内容	レッスン０：アルファベット、０から10の数字、クラスの中で使う表現	
	学習成果	綴りの理解、フランス語で数える、教室で使う表現が分かる。	
	予習復習の内容	ここでの学習内容は、続く全ての課に於いて使用されるので復習を通して慣れておく。	
3回	授業内容	レッスン１：挨拶、自己紹介、11から20までの数字	
	学習成果	フランス語の初歩的な単語・表現を使うことが出来る。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
4回	授業内容	レッスン１：être と avoir について、21から69までの数字	
	学習成果	年齢の言い方と国籍の言い方が分かる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
5回	授業内容	レッスン１：人を紹介する、70から99までの数字	
	学習成果	３人称単数の用法を理解する。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
6回	授業内容	レッスン２：職業、100以上の数字	
	学習成果	単語の女性形、男性形を区別できる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
7回	授業内容	レッスン２：～に住んでいる（-er 動詞）	
	学習成果	動詞の活用を理解する。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
8回	授業内容	レッスン３：国籍・言語（parler）と否定形	
	学習成果	フランス語の否定形を理解し用いることができる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
9回	授業内容	レッスン３：注文、支払いと定冠詞	
	学習成果	注文や依頼の表現と料金の提示が理解できる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
10回	授業内容	復習	
	学習成果	質問／返答、否定形、定冠詞、料金を理解する。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
11回	授業内容	レッスン４：目的語と否定形（1）	
	学習成果	メールアドレスを交換できる。「これは何ですか」の表現を理解する。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
12回	授業内容	レッスン４：目的語と否定形（2）	
	学習成果	「私は～を持っている／持っていない」の表現を理解する。兄弟姉妹について話すことができる。	
	予習復習の内容	練習問題：今回及び前回学習したことを用いた内容	
13回	授業内容	復習：前期期末試験に向けた準備	
	学習成果	１回から12回までの学習内容を網羅した復習の練習問題が解ける。	
	予習復習の内容	これまで学習してきた内容全て	
14回	授業内容	フランス映画鑑賞	
	学習成果	映画を通じ、フランス文化に親しむ。	
	予習復習の内容		
15回	授業内容	前期期末試験	
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	韓国語入門				担当者	文（ムン） 慶（キョン） 喆（チョール） ・ 黄（ファン） 孝（ヒョ） 善（ソン）						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	各授業の前後に対応。											

専門的学習成果	①	韓国語のハングル文字が書ける。
	②	韓国語のハングル文字が読める。
	③	韓国語で基本的な挨拶ができる。
	④	韓国語の基本文型を理解し自己紹介等ができる。
	⑤	韓国語を通したコミュニケーションをとることができる。
汎用的学習成果	(1)	勉強の方法を身に付けるとともに、国際化社会を生きる幅広い教養を身に付けることができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)
	(2)	多様なコミュニケーション能力を養い、グローバルな時代を生き抜く力を付けることができる。(専門的学習成果③～⑤に関連)
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、共に生きる力をつけることができる。(専門的学習成果④⑤に関連)
授業概要	いま現代は「国際化」、「情報化」の時代です。この「国際化」、「情報化」の時代に生き残るためには外国語の理解が必要不可欠です。また、韓国語は日本からすると色々な意味で一番近い言語です。この授業では韓国語を初めて学ぶ人の為にハングルの読み書きから始めます。基本文型を中心にしながらも直ぐにでも使える表現の習得も目指します。授業では韓国ドラマや映画等も取り入れて行います。	

評価方法基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。
		平常点	20	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。
		小テスト	30	毎回小テストを課し、評価を行う。
	汎用的学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	文慶喆　他	『かんたん！韓国語』	朝日出版社

参考書参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業をやすまないこと。 声を出して練習すること。 宿題や課題を真面目に提出すること。 ②毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。

	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	韓国語を学ぶ意義とハングルについて	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語を学ぶ意義とハングルについて説明できる。	
	予習復習の内容	韓国語の歴史やハングルの仕組みについて	
2回	授業内容	ハングルの母音と子音の書き方と読み方	毎回小テストをする。
	学習成果	ハングルの母音と子音が書けて、読むことができる。	
	予習復習の内容	ハングル文字の書き方や読み方	
3回	授業内容	ハングルの音節の構成と読み方	毎回小テストをする。
	学習成果	日本語の音節と比較してハングルの音節と特徴が理解でき、読むことができる。	
	予習復習の内容	ハングル音節表の作りや読み方	
4回	授業内容	ハングル語彙の読み方と自分の名前をハングルで書いてみる。	毎回小テストをする。
	学習成果	ハングル文字が読めて、ハングルで自分の名前が書ける。	
	予習復習の内容	ハングルで自分の名前や身近な語彙をハングルで書いてみる。	
5回	授業内容	簡単な挨拶表現と授業で使う韓国語表現	毎回小テストをする。
	学習成果	簡単な挨拶表現と授業で使う韓国語表現を話すことができる。	
	予習復習の内容	簡単な挨拶表現や授業で使う韓国語表現を書きながら覚える。	
6回	授業内容	名詞文とその文型練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の名詞文とその文型の理解ができる。	
	予習復習の内容	本文を暗記し、練習問題を自分の力でする。	
7回	授業内容	自己紹介の実践会話と受け答え練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語で自己紹介ができ、その受け答えができる。	
	予習復習の内容	自己紹介ができるように練習し、その課題をする。	
8回	授業内容	名詞文の「-ㅂ」のタイプと漢語数詞	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の会話体が理解でき、漢語数詞で数えることができる。	
	予習復習の内容	本文を暗記し、漢語数詞を書きながら覚える。	
9回	授業内容	名詞文の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の名詞文の実践会話ができる。	
	予習復習の内容	実践会話を暗記し、その課題をする。	
10回	授業内容	時間表現と「～から～まで」の文型	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の時間表現ができ、「～から～まで」の応用会話ができる。	
	予習復習の内容	韓国語の固有語数詞を覚え、時間を使った課題をする。	
11回	授業内容	時間表現の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の時間表現の会話ができる。	
	予習復習の内容	本文を覚え、その課題をする。	
12回	授業内容	助詞「～が」の文と名詞文の否定形	毎回小テストをする。
	学習成果	主語「～が」を使った文とその否定形の会話ができる。	
	予習復習の内容	韓国語の否定形の練習とその課題をする。	
13回	授業内容	名詞文の否定形の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の否定形を使った実践会話ができる。	
	予習復習の内容	本文を暗記し、その課題をする。	
14回	授業内容	指示代名詞を使った疑問文とその受け答え	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の指示代名詞を使った質問と答えができる。	
	予習復習の内容	韓国語の指示代名詞を日本語と比較しながら理解し、その課題をする。	
15回	授業内容	指示代名詞の疑問文の実践会話とその会話練習	毎回小テストをする。
	学習成果	韓国語の指示代名詞による会話ができる。	
	予習復習の内容	本文を暗記し、まとめの課題をする。	

科目名	情報処理演習Ⅰ				担当者	阿部（アベ） よし江（エ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。	
専門的 学習成果	①	Windows の基本操作ができる。
	②	Word の基礎的操作を習得し、文書作成に応用できる。
	③	インターネットを使っての情報検索、その活用ができる。
	④	自分の保育観を取り入れた文書作成ができる。
	⑤	Word について習得した知識や技能を、保育の専門科目に活用し、文書作成を実践できる。
汎用的 学習成果	(1)	コンピュータの操作方法を学ぶことを通して、基礎的な学習スキルを身につけることができる。（専門的学習成果①②③に関連）
	(2)	インターネット活用の必要性を学ぶことを通して、現代社会に対応できる総合的な判断力を身につけることができる。（専門的学習成果③に関連）
	(3)	各自の保育観を取り入れた課題作成を通して、保育実務に何をどのように活用できるかの総合的な判断力を養うことができる。（専門的学習成果④⑤に関連）
授業概要	実務に役立つツールとしてのコンピュータを総合的に活用する方法を学ぶ。演習Ⅰに於いては、Windows の操作方法を学び、適切にコンピュータを操作し、ファイル管理の重要性も理解する。キーボード操作や Word の基本的な操作方法を学ぶ。電子メールやウェブページの活用の必要性も理解する。演習問題にて、保育的内容の文書を繰り返し作成し、Word の機能が保育実務にどのように活用できるかを学ぶ。保育の専門科目にもいかに応用できるかを学ぶ。	

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	20	２回ほど筆記と実技試験を行い、３回分ほどの授業内容についての理解を評価する。
		課題	20	授業で作成した文書を添付ファイルとして提出し、指示通りに作成されているかを評価する。提出期限を遵守する。
		平常点	20	演習や課題への取り組み・意欲・態度により評価する。
		実技試験	40	第15回目の授業に実技試験形式で行い、授業内容の理解について評価を行う。
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果③により評価を行う。 （3）は専門的学習成果④⑤により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	杉本くみ子 / 大澤栄子	『ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー 2019』	実教出版

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内で作成した文書ファイルは "USB フラッシュメモリ " に保存するので、各自購入すること。案内文書並びに保育実務文書作成の際に、漢字の読みができない、誤変換などが無いように、教科書をよく読み保育用語等を理解しておくこと。（予習：週１時間程度）（復習：週３時間程度） ②小テストは実施後に正解を示し、解説を行う。課題ファイルは、全体的な解説や講評を行い、内容により添削後に返却し、再提出の場合もある。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、Windows の基本操作（起動と終了、ログイン、パスワード、ログアウト）	小テスト：筆記試験 第４回目の授業の前半に実施（コンピュータ用語、キーボードのキーの機能について）
	学習成果	本授業の内容を理解する。コンピュータを動かすことができる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。	
2回	授業内容	ファイルの管理（フォルダの作成、開く・保存操作）、アプリケーションの起動と終了	
	学習成果	指示通りにコンピュータとアプリケーションを動かすことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、操作方法を繰り返し理解する。	
3回	授業内容	キーボード操作（キーの名称とその機能、タイピング練習）	
	学習成果	キーの機能を説明できる。	
	予習復習の内容	文字入力をしながら各キーを実際に使用し、機能を理解する。	
4回	授業内容	Word 文書の基礎知識／文書の要素と構成方法、入力、変換、保存	
	学習成果	Word 文書の入力と保存ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、正確な文書入力ができるように繰り返し実践する。	
5回	授業内容	Word 文書の入力と編集／ページ設定、入力、書式設定	課題への取り組み（Word の案内文書の作成）
	学習成果	指示通りに、Word 文書の編集ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Word 文書の編集について理解を深める。	
6回	授業内容	Word 表作成機能（1）／表の挿入、表の構成要素、行・列・セル	
	学習成果	作成した案内文書に表を挿入することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表作成について理解を深める。	
7回	授業内容	Word 表作成機能（2）／表の編集（列幅、行の高さ、結合と分割、文字の配置、線種の変更等）	
	学習成果	指示通りに、表の編集ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表の編集について理解を深める。	
8回	授業内容	インターネットの活用／課題提出用のフリーメールアドレスの取得と添付ファイルでの提出	インターネットの活用
	学習成果	フリーメールを使い、作成した課題を添付ファイルとして提出できる。	
	予習復習の内容	フリーメールに使用する、ログイン ID とパスワードを考えておく。	
9回	授業内容	Word グラフィック機能（図形の活用）（1）／ワードアート、図形作成、書式設定	小テスト：実技試験 第12回目の授業の後半に実施 （案内文書に表を作成し、イラスト、写真、図形などのグラフィック機能を取り入れる）
	学習成果	ワードアート・図形を作成し、その編集ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ワードアートや図形について理解を深める。	
10回	授業内容	Word グラフィック機能（図形の活用）（2）／複数図形の配置・グループ化、テキストボックスの活用	
	学習成果	複数の図形の書式設定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、複数図形の活用についての理解を深める。	
11回	授業内容	Word 文書へのイラストや写真の取り込み（1）／オンライン画像の検索と挿入	
	学習成果	画像検索と取り込んだ画像の編集ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、画像の編集について理解を深める。	
12回	授業内容	Word 文書へのイラストや写真の取り込み（2）／スマホのデジタル画像の保存と活用	
	学習成果	スマホのデジタル画像をコンピュータに保存できる。	
	予習復習の内容	活用するデジタル画像の準備をする。／スマホでの図工作品等の撮影	
13回	授業内容	観察施設実習調査表の作成（1）／ Word の表作成機能を使用しフォーマットを作成	各自の観察施設実習調査表の記入内容を事前に確認しておく。
	学習成果	観察施設実習調査表のフォーマットを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Word の表作成機能の実務への応用についての理解を深める。	
14回	授業内容	観察施設実習調査表の作成（2）／実習先幼稚園の地図の取り込み	
	学習成果	インターネットを使用して幼稚園周辺の地図を検索し、調査表に取り込むことができる。	
	予習復習の内容	実習先幼稚園の所在地を確認しておく。	
15回	授業内容	Word 実技試験／入力、ページ設定、表作成、グラフィック機能等を使用した保育実務文書の作成	実技試験（Word の機能やインターネットの活用をよく理解しておく。
	学習成果	学習した内容を理解し、指示通りに案内文書を作成できる。	
	予習復習の内容	テキストや配布プリントで、試験範囲にあたる部分の内容を確認・理解しておくこと。	

科目名	情報処理演習Ⅱ				担当者	阿部（アベ） よし江（エ）						
区　分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。
専門的 学習成果	①	Word／Excel／PowerPoint の各種機能を理解し、その操作ができる。
	②	教育実習の事前資料である、指導案作成の必要性を理解し、その内容を Word 機能を使用し作成できる。
	③	スマホで記録した図工等の手作り作品の画像（デジタルデータ）を保育実務に活用できる。
汎用的 学習成果	(1)	各種アプリケーションソフトを相互に活用する方法を学習することを通して、総合的な判断力を養うことができる。（専門的学習成果①③に関連）
	(2)	教育実習指導案の作成を通して、自己啓発の必要性、他者とのコミュニケーションの必要性を理解することができる。（専門的学習成果②に関連）
	(3)	デジタルデータの取り扱いの重要性を理解することで、現代社会に対応できる判断力を養うことができる。（専門的学習成果①②③に関連）
授業概要		Word／Excel／PowerPoint の基本的な操作方法を学ぶ。さらに、３つのビジネスソフトを総合的に活用する方法を学ぶ。また、他の授業内で作成した各自の図工作品などをスマートフォンで撮影し、そのデジタル画像を各種アプリケーションソフトで保育実務にどのように活用できるかを学習ぶ。教育実習にむけての事前資料（指導案）の作成に取り組むことで、学習した Word や Excel の機能やデジタル画像がどのように活用できるのかを学ぶ。

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート		
		小テスト	20	２回ほど筆記と実技試験を行い、３回分ほどの授業内容についての理解を評価する。
		課題	20	授業で作成した文書を添付ファイルとして提出し、指示通りに作成されているかを評価する。提出期限を遵守する。
		平常点	20	演習や課題への取り組み・意欲・態度により評価する。
		実技試験	40	第15回目の授業に実技試験形式で行い、授業内容の理解について評価を行う。
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果②により評価を行う。 （3）は専門的学習成果①②③により評価を行う。		

テキスト等	著者・編集者名	書名	出版社名
	杉本くみ子 / 大澤栄子	『ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシー 2019』	実教出版

参考書 参考文献	著者・編集者名	書名	出版社名

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①前期の「情報処理演習Ⅰ」で使用したテキストと "USB フラッシュメモリ" を演習Ⅱでも引き続き使用する。Excel についてはテキストの解説部分を授業前に読んでおくこと。指導案作成の場合には、各自の指導案をよく読み込み、内容を理解しておくこと。（予習：週１時間程度）（復習：週３時間程度） ②小テストは実施後に正解を示し、解説を行う。課題ファイルは、全体的な解説や講評を行い、内容により添削後に返却し、再提出の場合もある。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	演習Ⅱのガイダンス、Excel の概要説明／デモンストレーションファイルを使用しての基本操作体験	小テスト：筆記試験 第３回目の授業の前半に実施 Excel の構成要素、 四則計算の演算子 計算式の入力方法 オートフィル等
	学習成果	本授業の内容を理解する。Excel の画面構成を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Excel の全般的な機能を理解する。	
2回	授業内容	Excel　データの入力と編集／英文字・数値・日本語の入力、各種の機能の理解	
	学習成果	Excel の各種機能について学習した内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Excel の各種機能について理解を深める。	
3回	授業内容	Excel　計算と表示形式（1）／入力、四則計算、SUM 関数、保存	
	学習成果	Excel の計算式（四則計算、SUM 関数）を入力できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、四則計算、SUM 関数ついて理解を深める。	
4回	授業内容	Excel　計算と表示形式（2）／絶対参照、基本関数、表の書式設定	小テスト：実技試験 第６回目の前半に実施 Excel の表とグラフの作成 データ入力、計算 （絶対参照、関数）、 表の編集、グラフ作成まで
	学習成果	絶対参照、基本関数の計算式を入力できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、絶対参照、基本関数について理解を深める。	
5回	授業内容	Excel　グラフの作成と編集／棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ	
	学習成果	Excel の表データを使用し、グラフが作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、目的に合ったグラフ作成について理解を深める。	
6回	授業内容	PowerPoint（1）　基本操作／幼稚園紹介のプレゼンテーションの作成	
	学習成果	簡単なプレゼンテーションのスライドを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スライドの作成方法を理解する。	
7回	授業内容	PowerPoint（2）　オブジェクトの挿入	課題への取り組み 習得した学習内容を活用
	学習成果	Word のグラフィック機能を応用したオブジェクトの挿入ができる。	
	予習復習の内容	スライドに使用するデジタル画像（各自の図工作品等）を準備する。	
8回	授業内容	PowerPoint（3）　効果的なプレゼンテーション	
	学習成果	スライドに画面切り替え、アニメーション効果を設定できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、目的に応じたスライドショーを実践する。	
9回	授業内容	PowerPoint（4）　デジタルファイル（画像・音楽）の活用	課題への取り組み 習得した機能をでの画像・音楽の編集
	学習成果	デジタルファイルを使用したスライドショーが作成できる。	
	予習復習の内容	使用するデジタルファイル（画像・音楽）を準備する。	
10回	授業内容	PowerPoint（5）　動画、音楽の編集	
	学習成果	時間や目的に合わせて、効果的なスライドショーを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、編集の必要性について理解を深める。	
11回	授業内容	実習の事前資料（指導案）作成（1）／Word で指導案のフォーマットを作成	課題への取り組み 各自の計画した指導案への習得した機能の活用
	学習成果	Word の表作成機能を活用し、指導案のフォーマットを作成できる。	
	予習復習の内容	Word で作成する前に、各自が計画した指導案の内容を確認しておく。	
12回	授業内容	実習の事前資料（指導案）作成（2）／フォーマットへの入力	
	学習成果	各自の計画した指導案の意義と目的を確認しながら入力し、内容の改善に気づくことができる。	
	予習復習の内容	各自の指導案の内容を確認しながら、改善点に気づくよう理解を深める。	
13回	授業内容	Excel　データベース機能／並べ替え、抽出	課題への取り組み データベース機能の活用 Word と Excel の連携を理解
	学習成果	Excel の表をデータベース的に利用することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、並べ替えや抽出についての条件を理解する。	
14回	授業内容	Word・Excel　データの共有／Word 文書への Excel データの挿入	
	学習成果	Word 文書に、Excel の表やグラフを貼り付けることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、Word・Excel のデータ共有について理解を深める。	
15回	授業内容	Excel・Word 実技試験／データの共有（Word 文書への Excel データの挿入）、データベース機能	実技試験（Excel 実技小テスト以降に学習した機能や、Word への活用をよく理解しておく。
	学習成果	学習した内容を理解し、指示通りに Word・Excel ファイルを作成できる。	
	予習復習の内容	テキストや配布プリントで、試験範囲にあたる部分の内容を確認・理解しておくこと。	

科目名	海外文化研修				担当者	齋藤美香・佐々木貴弘						
区　分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						

教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業前後に教室で受け付ける。	
専門的 学習成果	①	海外（渡航先）の文化や歴史について、探求心を持って計画することができる。
	②	事前に調査・計画した研修内容を現地での行動を通して実践できる。
	③	日常会話程度の語学力を習得して現地で活用できる。
	④	海外で生活するに際し、自己管理と危機管理能力を意識し行動することができる。
汎用的 学習成果	(1)	基礎的な会話スキルを身につけ、多言語社会にいかすことができる。(専門的学習成果①②③④に連動)
	(2)	多文化に対応できる総合的な判断力とコミュニケーション能力を有し、主体的に行動することができる。(専門的学習成果③④に連動)
	(3)	国際社会での貢献をめざして、自己啓発を続け、グローバルな観点で協働することができる。(専門的学習成果②③に連動)
授業概要	異国（海外）にて１週間程度の研修を行い、現地の経済・文化・歴史について学ぶ。また、グループに分かれ専門研修を行い、キャリア、保育の各分野で専門的知識と専門技術を習得する。さらに国際交流として大学交流やボランティアを実践し外国人とのコミュニケーションをはかる。この授業は集中講義で行い、海外研修をするにあたり、事前学習として旅券申請手続き、語学学習なと研修に必要な知識と教養を身につける。研修旅行終了後は報告書を提出する。		

評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準
	専門的 学習成果	定期試験		
		レポート	30	研修旅行終了後にレポート提出する。
		平常点	20	事前学習での取り組み、意欲、理解度により評価する。
		研修	50	研修旅行期間中の取り組み、意欲により評価する。
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習評価①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習評価③④で評価を行う。 (3) は専門的学習評価②③で評価を行う。		

	著者・編集者名	書名	出版社名
テキスト等			
参考書 参考文献			

①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①１・２年共に受講できる。訪問国など、具体的な計画は新年度開講期に伝える。事前説明会を実施し、説明会に参加してからの履修も可能とする。 研修参加費用として約20万円を予定している。受講者が20名に満たない場合は中止となることがある。 事前学習として訪問国についての情報を収集しておくこと（予習：週２時間程度)。授業後は学習内容を振り返り、課題や疑問点について調べ、理解を深める（復習：週２時間程度)。 ②レポートや課題については、添削し返却する。

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス　概要説明	授業において受講学生にシラバスの内容を質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	事前学習としてシラバスを読み、内容を理解する。	
2回	授業内容	申請等の手続き、スケジュールの説明	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	旅券の申請を各自行える。研修旅行日程を理解して行動計画を立案できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
3回	授業内容	申請等の手続き、専門研修やフィールドワーク	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	自主研修と専門研修の内容を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
4回	授業内容	異国の文化　①歴史と発展	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	渡航先の歴史とその発展を理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
5回	授業内容	異国の文化　②現代と経済	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	渡航先の現状と経済について理解して説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
6回	授業内容	専門研修の概要	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	専門研修の内容を理解して選択できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
7回	授業内容	専門研修の準備　語学学習	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	研修先の言語を学習して専門研修で活用できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
8回	授業内容	最終案内・確認	各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。
	学習成果	海外に渡航するにあたり自己管理と危機管理を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
9回	授業内容	研修　第１日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
10回	授業内容	研修　第２日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
11回	授業内容	研修　第３日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
12回	授業内容	研修　第４日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
13回	授業内容	研修　第５日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
14回	授業内容	研修　第６日目	海外での研修期間中は研修への取り組みを評価する。
	学習成果	計画されている研修内容を実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	
15回	授業内容	研修報告	海外での研修内容をまとめレポート課題として提出する。
	学習成果	研修内容をまとめる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り理解を深める。	